

## 鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

平成 30 年 5 月 11 日

衛霊公 第十五

【三八】子曰く、<sup>しいう</sup>教有りて<sup>おしえあ</sup>類<sup>るいな</sup>無し。

孔子がいうには、「教」は教育です。「類」は貴賤の別ということですから、身分の違いは関係ない。孔子のところに来る者は、身分に関係なく上流階級の子弟達や庶民階級の子もかなり集まってきましたが、区別なく教えていました。孔子は、教育はすべて公平でなければならないという考えがあり、これは現代に通じる考えかただと思います。お弟子さん達は各国の総理大臣や色々な大臣職に就きました。ただもう一歩進めると、教育は鋳型にはめるという考え方があります。孔子はものの考え方を鋳型にはめて、きっちり弟子に教えこむ。孔子の意に染まぬ弟子は、孔子の元を去っていったと感じます。

現代に置き換えてみれば、こういう考え方で教育をしている先生はどれだけいるのかなと思います。日本の教育システムは、日教組や教育委員会のありかたなど、世界の教育の状況からみても日本はちょっと変わっていると思います。結果として子供達の学問レベルがどんどん落ちてきて、日本の国の子供達は学ぶ意欲をなくしている現状だと思っています。これは相当まだまだ落ちていくと思います。

【三九】子曰く、<sup>しいう</sup>道同じから<sup>みちおな</sup>ざれば、<sup>あいため</sup>相為<sup>はか</sup>に謀らず。

孔子がいうには、同じ目的を持って勉強する人達はライバル同士だから、「相為に謀らず」は、本当に自分が困ったときに同士の中から、相談するのはちょっと難しいだろう。同じ学問の道に進み尊敬する人間でも、やはり自分が一歩先に進みたいとなってしまうから難しいだろう。切磋琢磨は必要であるけれど、その先お互いトップになっていくことは、お互いが相談しあって、または切磋琢磨しあって、その一歩先に進むことはあり得ないだろう。これは怖い話だなと感じます。

同じ目的の人間同士ということを政治家で見れば、赤絨毯を踏んだ人間は、みな内閣総理大臣を目指すといわれています。実際に国会議員になった人達の話を知ると腹の中にはみな持っている。国会議員にやっとなれたと思う小粒な人でも総理大臣になりたいと思っている。話していると、ぼろっと出てきます。安倍さんも総理大臣になってしまったので、日本の国は凄い国だと思います。それに長期政権を敷いているから、これも凄いものだと思います。父親や祖父をみれば総理大臣の道を歩んでもおかしくはないということだけれども、どうしても不思議です。

「相為に謀らず」だから、安倍さんの勢いが強い時には安倍さんを総理大臣として同士が盛り立てているように見えるけれど、ちょっと落ち目になってきたと思ったら、みんなで足を引っ張りだして、次は自分だとやりだす。麻生さんもどこまで本気なのか分からないという感じがします。

#### 【四〇】子曰く、辞は達するのみ。

「辞」は、言葉です。書いたものとか言葉は、相手に意思が通じればよい。手紙は意思が通じればよいし、誰かに会って話をする時に意味が通じればよいので、何も相手に対してお世辞を言ったり胡麻をする必要はない。

意味が通じあえばよいということですが、今の北朝鮮、韓国、中国、日本、アメリカ、ロシアをみると、意味が通じればよいということだけを確かにやっているように見えます。多少飾っている部分がありますが、多少飾っているものを皆さんが拡大解釈して、かえって訳わからなくしているなと感じます。話を聞いていると本音だけぶつけあっていると、みえます。本音をぶつけあっているのをきちんとメディアが伝えればよいものを余計な解説をするから余計わからなくしてしまうなと思っています。